

¡Hola Guanajuato!

広島県立広島国泰寺高等学校 1年 池田 杏奈

今回、この第二回グアナファト青少年交流派遣事業に応募したことで、私の人生が一転したと言っても過言ではありません。

最初のきっかけの一つは、トランプ大統領がアメリカとメキシコ間の国境に壁を作るという宣言をした記事を見たことでした。その公約に政治的な問題の疑問を抱き、そしてメディアから報道される偏ったメキシコの情報はただの一面だけであると感じました。

そこで「真のメキシコ」はどうなのか自分自身の目で確認したいと思い、また国際交流にとっても興味があったので、この交流派遣事業に応募しました。

メキシコを訪れて、私の想像は良い意味で裏切られました。

第一に、それまで私の拙い情報量からメキシコの治安はあまり良くないと思っていましたが、今回の10日間で身の危険を感じたことはありませんでした。地域によって差はあると思いますが、少なくとも私が訪れた場所は安全で治安が良かったと思っています。

第二に、メキシコを訪問して一番印象に残っていることは、メキシコ人の国民性でした。交流した学生さんやホストファミリー、州職員の方など関わった方々全員が陽気に歓迎してくださり、とてもフレンドリーな人ばかりで日本人に負けないほどのおもてなし精神に感動しました。



さらに、メキシコで一番に驚いたことは、学生さんやホストファミリーと文化交流する中で、皆さんが日本、特に広島に関しての知識が豊富だったことです。様々な質問をしてくださり、興味、関心が高かったことが日本人として嬉しかったです。しかし色々な人とコミュニケーションを取ることで、私自身「日本を知らなさすぎる」ことにも気づきました。もっと自国のことを真剣に詳しく学ばなければいけないと思いました。

また現地の高校、大学を訪れた時、勉強やエクストラカリキュラムに励んでいる同年代の人達から刺激を受けました。交流した学生さん達とは今でも連絡を取り合っています。メキシコから持ち帰った1番の宝物です。

2泊3日一緒に過ごしたホストファミリーとは、とても有意義で素晴らしい時間を過ごしました。私を本当の家族の一員のように接してくださり、また、互いの文化や習慣、言葉を学ぶという貴重な体験もさせていただきました。帰る際には、「ここはあなたのメキシコでの家だから」と言われ、とても嬉しく感激しました。



おおらかな自然、人々に囲まれたメキシコでの生活で気づいたことの一つに、時間に対する考え方の違いがありました。計画性のある几帳面な日本人に比べ、時間にマイペースなメキシコ人との違いに最初は戸惑いもありましたが、すぐにそのアバウトさの雰囲気に惹かれました。そんなメキシコ人だからこそ、柔軟で急な出来事にも臨機応変に対応できる独自の良さも感じました。

グアナファトに進出している日系企業へ訪問した時、それぞれの国民性の違いの良さを生かした経営方針を伺いました。

その際、自国の文化や歴史についての理解をもっと深め、同様に相手の文化や歴史を尊重する大切さを学びました。

「真のメキシコ」は、政治的な社会状況がどのようにメディアに報道されていても、現地へ行くとやはり報道されたことが全てではありませんでした。人と人同士の交流がその国を知る一番の方法だと身にしみてわかりました。国レベルの関係者の交流だけでなく、市民レベルでの相互理解を深めることも重要だと理解しました。

2020年東京オリンピック・パラリンピックの年には、広島がメキシコチームの事前合宿の受入地となる予定です。今回グアナファトで受けたおもてなしを今度は自分から恩返しできるよう、まずはスペイン語の上達を頑張りたいと思います。

以前の私のように、メキシコの一部しか知らない人もいると思うので、今回私が習得した多くの経験、知識を周りの人にも共有し、メキシコの素晴らしいところを伝える役目をできたらと考えます。

今回親交が深まった他の参加者と、将来一緒にグアナファトを再訪問する約束をしました。次回グアナファトへ行く時は、流暢なスペイン語でより高度な国際交流をしたいです。この交流派遣事業の参加より、ますます将来は海外を舞台に活躍したいと強く思いました。

最後にこのようなチャンスを頂き、また今回関わってくださった全ての方々に感謝しています。

本当にありがとうございました。

平成29年度グアナファト州青少年交流事業報告書

ノートルダム清心高等学校 1年 鬼頭里歩

この事業に参加するまでメキシコといえば、地理の授業で学習した「ラテンアメリカの暑そうな国」というくらいのイメージしかありませんでした。訪問先となるグアナファト州に至っては名前すら知りませんでした。ですが事前学習で街全体が世界遺産であることや、広島県と友好提携を結んでいることを知り、異文化に好奇心旺盛なわたしは次第に興味を惹かれ、この事業に参加させていただく運びとなりました。



特産品の革製品の工場で作業体験中の筆者

現地では主に高校や大学、広島にゆかりのある企業の訪問、そして遺跡、教会、現地特産品の工場にも足を運びました。研修中は常に現地の高校生や大学生に同行していただきました。移動する車中ではメキシコの手遊びやダンスの披露、スペイン語の歌で盛り上げていただきました。また「日本語ではこの言葉を何というの？」等、日本や広島について詳しく知ろうとして下さっている気持ちが伝わってきました。学校訪問ではお互いに母国語ではない英語を使ってのコミュニケーションだったため意思疎通が難しいことも少しありました。それでも、みなさんが積極的かつフレンドリーにたくさん話しかけてくださり、とても嬉しかったです。

訪問中最も印象的だったのはホストファミリーとビゼンテナリオパークに行った時の事です。この公園の一角に広島とグアナファトの友好提携を記念して開催されている展示場がありました。場内では熊野筆といった広島の伝統工芸品や自動車などの産業品のほか、原爆についてのパネル展示がありました。原爆の仕組みや、広島市民の被害の様子が英語で書かれていました。展示室を出た後、ホストファミリーは「広島の被害については学校の授業で学んだので知っていたが、現在も被害に苦しむ人がいることは知らなかった。忘れてはならない歴史のうちの一つだ。」と話していました。広島で暮らす市民の一人として、次世代へと伝え続けることの大切さを改めて考えるきっかけとなりました。



広島の展示をみるホストファミリー

私は、この度のグアナファト州青少年交流事業を通し沢山の貴重な体験をさせていただきました。研修に参加する前の私のようにメキシコやグアナファトについて知らない人はまだまだたくさんいると思います。

そんな日本の人たちに、グアナファトの魅力をもっとたくさん伝えたいです。そして、もっと多くのメキシコの人をはじめ世界の人に広島のことを伝えたいと思いました。広島とグアナファトは11653キロメートルと物理的にはとても離れていますが2都市間の懸け橋であり続けたいと思っています。また、2020年東京オリンピックの事前受け入れ地に広島が決定した今、より一層スペイン語の学習に励んでいきたいです。



現地大学にて、現地高校、大学の関係者と筆者

最後になりますが広島県の担当職員の皆さまをはじめ、グアナファト州政府の皆さま、現地交流に参加いただいたグアナファトの高校生、このプログラムに携わって下さった皆様に感謝申し上げます。

平成 29 年度グアナファト州青少年交流派遣事業報告書

広島県立可部高等学校 3年 野田 裕仁

今回 11 日間のグアナファト州青少年交流派遣は、私にとってとても有意義な経験になりました。友好提携のあるグアナファト州と広島県、そして自分自身のために積極的に交流しようと心に決め出発しました。メキシコは、人口は日本とほぼ同じ、面積は日本の約 5 倍、国土の大部分は山地なので日本よりも涼しい夏でした。言語はスペイン語です。

1994 年に NAFTA（北米自由貿易協定）が発効されており、工業（製造業）が盛んで日本からもたくさんの企業が進出しています。今回はヒロテックとマツダを訪問させて頂きました。良い関係が作れるよう互いの文化を尊重しとても良い雰囲気の会社で、現在では、ほぼメキシコの社員で工場を回し日本人はマネジメントをメインにされているとのことでした。現地の方が「メキシコの経済は、これからどんどん伸びていく」と言われていましたが、人口比率で若い世代の方が多く、まさにその通りだと感じました。



2 日間のホームステイ先は、私がメキシコに行く前に来日して、広島で交流した方の家でした。家族の皆が優しく迎え入れてくれたので楽しく過ごすことができました。ホストシスターとは未だに連絡をとっています。彼女は日本語を勉強しているため、時々日本語で返事が返ってくることに驚かされます。高校・大学訪問では、授業に参加し現地の学生と近い距離で交流することができました。メキシコ人はフレンドリーなので誰とでもすぐに友達になることができました。学生の方たちには、世界遺産やテキーラ工場、サボテン園など、とても美しく、楽しいグアナファトを案内してもらいました。一緒に行動して話をする機会を持つことができ、楽しく充実した時間となりました。

今回メキシコの方のみならず、同じ志を持って同行した他校の高校生 2 人とは、日が経つにつれ信頼関係も深まり、皆でより良い交流をしようという気持ちで、楽しく思い出深い交流ができたことと確信しています。このように素晴らしい交流ができたのも、引率や交流事業に関わって頂いた国際課の方々をはじめとした多くの人々のおかげであり、とても感謝しております。私はこれからも英語のみならずスペイン語も学び、広島県とグアナファト州の友好親善の架け橋の一員となれるように努力したいと思っています。今回この事業に参加し、素晴らしい経験をさせて頂きましたことに心から感謝します。